

パイプいすを並べていた聖堂に木製の長いすが入った。ボランティアをしている人が仲間に呼び掛けて寄付を募り、プレゼントしていただいた。名前を明かさないので、誰がしてくださったのか、全く分からない。徹底した匿名。子ども用のもの、「侍者」用のものも頂いた。木はぬくもりが伝わって座り心地がいい。聖堂の雰囲気が変わった。そして共同体の雰囲気も一段と温かくなった▼信徒に問い掛けた。今、ここに貧しく、みすぼらし

い姿の人が、汚れた服を着、靴をはいて入って来たらどういふふうに感じるだろうか。よつこそいらっしやいました、とい



03.9.14

う気持ちで案内できるだろうか。聖堂を訪れたことを喜び、一緒に神様を賛美することができたらどうか。それとも、入ったばかりのきれいなす

が汚れることが気になるのか。▼いつのころからかは分からないが、ミサには最高の身なりをして参加するしきたりが出来たようだ。神に近づくのだから、聖なる方に近づくのだから、きれいな身なりをして神の前に出なければならぬ。そのような考えが教会の中に定着している。しかし、聖なること、聖なるものとは、きれいなことだろうか。清潔なことだろうか。汚れていないことだろうか。きたない格好は、神に対して失礼になる、と

いう人もいる。神もまた、そのよつに思っているのだろうか。それは、人の考えのよつに思える▼イエスは十字架の上で血みどろになって死んでいった。きたなくて、臭くて、目を背けたくなるほどの姿で死んでいった。それは聖なる姿。神はご自身の最高の愛を表すために、あのような死に方をした。誰でも神に近づくことができるために。きれいなすは、いろいろな人の祈りを吸い取って汚れていく。